

会議の概要（議事録）

会議の名称	女性の防災対策懇談会（第2回）		
開催日時	平成26年6月26日（木）午前10時から午後12時まで		
開催場所	すみだ女性センター3階 ホール		
出席者数	<p>13人</p> <p>【委員】8人</p> <p>浅野 幸子（早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員）</p> <p>武市 海里（墨田区男女共同参画推進委員会委員）</p> <p>角田 妙子（すみだ女性センター運営委員会委員）</p> <p>北村 嘉津美（鐘ヶ淵町会長）</p> <p>佐藤 摩耶子（墨田区子ども・子育て会議委員、墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会委員）</p> <p>佐々木真貴子（高齢者支援総合センター職員）</p> <p>須藤 浩司（防災課長）</p> <p>渡部 和美（人権同和・男女共同参画課長）</p> <p>【事務局】5人</p> <p>防災課防災係係長、防災係主査、防災係主事（2人）、すみだ女性センター館長</p>		
会議の公開（傍聴）	公開（傍聴できる）	傍聴者数	0人
議題	「避難所の生活環境について」		
配布資料	<p>1 避難所運営マニュアル</p> <p>2 墨田区地域防災計画（25年度修正）</p>		
会議概要	<p>1 開会</p> <p>2 浅野委員長による議事進行</p> <p>各委員へ前回の配布資料（避難所運営マニュアル、墨田区防災備蓄物資一覧等）を読んだ率直な感想や避難所運営の中で必要な対策及び考えるべき点等、各委員が感じたことを発表してもらい、意見交換を行った。</p> <p>【主な意見・質問】</p> <p>E マニュアル自体はよく出来ていると思うが、要援護者が一括りにされており、子どもや高齢者、傷病者等で分けるべきであると思った。また、地域でこのマニュアルをどう活かしていくかが重要であるように感じ、地域連携が深まるような取組を行政が支援していくと良い。</p> <p>なお、自分の地域では災害時の組織運営に係るマニュアルが作成されており、役割分担などもよく決められている。</p> <p>F マニュアルを使った防災訓練を行うことが大切である。</p> <p>E マニュアルを地域で深めていくことが重要である。また、子どもには様々な配慮が必要で、乳児にはミルク、オムツ、ウェットティッシュ等の物資が必要。少し大きな子どもでもストレスを溜め込まないような遊び場の確保や騒いでしまうことへ地域の人の理解が必要であると感じる。</p>		

F 石巻でボランティアリーダーをしていた方から話を聞く機会があり、避難所の様子等を聞くことができたが、大切な部分の多くは墨田区のマニュアルに書かれているように感じた。

避難所生活では、介護経験等を活かした女性も多くおり、そのような活力をうまく引き出す男性のグループリーダーがいる避難所はうまく回っていたという話もあり、得意分野を活かせるような配置を敷くことが重要に感じた。

備蓄物資については、排泄、生理用品等を各避難所にも充実するべきだと感じた。また、避難所に逃げられるような高齢者を意識し、紙オムツではなくリハビリパンツや尿取りパッドでも対応可能ではないかと思う。その外、サランラップがあれば衛生的にもよいと感じた。

A 初動体制の立ち上げのために、ある種のマニュアルは必要となってくるが、状況は刻一刻と変わり、担い手も変わってくる。地域がより柔軟に動けるようマニュアルの書き方を工夫し、役割だけでなくコミュニケーションや研修のあり方等も検討していく必要もあるのではないかと感じた。

C どのようにマニュアルを活かしていくかを明確にして、男女ともに活躍できる体制作りを考えてほしい。また、拠点会議等の場に婦人部やPTAをはじめ、女性もより多く参画していくとよい。

また、私の民生委員を務めた経験上、避難所生活でも相談窓口を設けられればよいと思いました。

A 実践的に考えていくと避難所運営におけるPTAの登用は重要になってくる。子育て世代や女性が力を発揮できる環境作りが重要となる。

C 民生委員の在宅避難者のケアは高齢者支援総合センターと協力しながらやっていくしかない。具体的個別的な支援には限界があり、行政に状況報告を行うことくらいしかできない。

A 要援護者の方の中で特に配慮すべきなのは、避難所に来られないような方や避難所生活に馴染まない方であり、そのような方々をどのようにケアしていくかは課題である。

B マニュアルが非常に読みにくいと感じた。タイトルを見てもどういう目的のマニュアルか判然としない。もっと読む人が元気を出せるようなタイトルに変え、内容もより見やすいように文字を大きくし、図を多用する等して視覚的に捉えていけるように変更していくと良い。特に避難所運営組織の体系図は分かりにくかった。

また、地域の重要性を鑑み、ご近所力（ごきんじょりょく）を高めていく取り組みをすべきである。たとえば、各町会・自治会に対し、男女共同参画を含めた防災対策講演会を行い、会長や女性リーダーが必ず参加するように呼びかけていければよいのではないかと思う。

G このマニュアルは普遍的な組織図を示したに過ぎず、拠点会議等の集まりで避難所運営について検討していくものです。ですので、各拠点会議によってムラはあります。

B グループリーダーがどういう人なのか。私自身がリーダーになるには、どこに行つてどういう学習すればいいのか。

G 拠点会議の本部長や役員が運営を統括していく中で役割分担を現場で決めていくこととなるかと思えます。

- B このマニュアルは避難してくる人のためのマニュアルではなく町会・自治会向けのものなのか。
- G 個々人のということではなくて、拠点会議などの運営組織で決めていくためのマニュアルという位置付けです。
- B マニュアルに女性リーダーを設けるといことが書かれていない。
- G 女性の役割であるとか配慮すべき点などを明確にしていくことは重要である。
- D 女性防災部会という組織を作ると良いと思う。避難所運営マニュアル等を作る際にもそういう組織があった方が、意見が出しやすい。
- また、臨時非常配備職員との連携を図る機会が欲しい。いざという時に誰がくるかもわからないのが不安である。
- G よくそういった話をいただくが、臨時非常配備職員はその地域専属の職員ではなくたまたま近所の職員に鍵を預かってもらっているというだけなので、区全体で考えてもらいたい。平常時などに鍵を持って来るのが、臨時非常配備職員とも限らない。
- D マニュアルというよりもA4版くらいの紙に簡単明瞭に避難所運営のあり方等をまとめた資料を作る方がよいのではないか。
- B 町会長が避難所の鍵を保有する方法もあるのではないか。
- G そういう区もありますが、施設を管理するのはあくまで区であり、安全を確認して開けるという義務がある。
- F 預かる側の責任もあるということですね。町会に責任が生じてしまう。
- A 鍵を開ける職員の方は、避難所を開設するにあたり必要な安全の点検項目や、初動体制で必要となってくる資機材の操作等の訓練を受けているのか。
- G 点検項目のチェックの訓練はない。
- A 職員の方々がどこをどう見れば安全と判断できるかのチェックリストを持つなど訓練を受ける必要はあるかと思う。
- B 災害時に外国人に情報が伝わるかなども非常に不安である。
- C 墨田区には外国人が5,600人ほどいます。外国人も災害弱者であるので、対応を考えていかなければならない。
- A 話しを整理していきたい。まず、避難所マニュアルを中心として避難所生活をいかに実践的に乗り越えるかということ。マニュアルの中身やあり方を検討し、より分かり易いものを作っていかなければならない。体系図や配置図などは組織の例を複数あげて、多くのパターンを示すことやPTAを組織の中に位置づけるということも必要である。その中で、マニュアルを通じ女性の参画の重要性を説いていくことが大切である。
- また、女性の防災リーダーを育てていく自治体も増えてきており、防災訓練にて従来までと男女の役割を逆転させた訓練を行うなど様々な取り組みを行っている。その中で、男性リーダーに女性参画の必要性を説くと逆に組織などが早く整備されることもある。
- F PTAの登用という意見が多く出ているが、PTAの立場としては、負担が大きくなってしまおうという思いから、消極的になる方も多く出てきてしまおうと思う。
- それよりも拠点会議が墨田区での実質的な避難所運営の力、人材の担い手の場所とであるということを広く区民にPRしていく必要があると思う。

	<p>D P T Aと町会・自治会がより連携を深めていけるようにしていく必要はある。</p> <p>F 人材育成の場がどんな場があるのかを確認したいのですが。</p> <p>G 中学校なんかでは自主防災組織はございます。現在、5校くらいの学校が自主防災組織を持っている。</p> <p>D 災害ボランティアはありますか。</p> <p>G 社会福祉協議会や消防署でやっております。ボランティアセンターでそういった講座をやったりしている。</p> <p>A ボランティアセンターの講座というのはボランティアセンターの運営に関わることを前提とした講座が多い。本来、このような研修で大事なことは、地域とつながりながら被災者の実情を把握し、どういった支援していけるかといった点であると思う。</p> <p>C 拠点会議へ女性が多く参加するように、区が強く要請して欲しい。</p> <p>A 内閣府の男女協同参画の指針にもあるように、意識的に女性の人材育成の場を作っていかなければならない。また、P T Aの参画については、いかにP T Aが入ることが避難所運営の中でメリットなのかをきちんと明確にすることが大事になってくる。また、現在ある墨田区のマニュアルは、マニュアル策定の指針に過ぎないので、ある種、このマニュアルに囚われず柔軟に考えていけるようなものを作って欲しい。</p> <p>G 本日、いただいた意見を集約して、今後どうしていくかを皆様にお示ししたいと考えております。そうすると、課題や解決の方向性も見えてくるのかと思う。また、一つのテーマとして避難所の生活環境を向上させるということもあるので、その辺を踏まえてどういうものが必要かなどを考えていければと思っております。</p> <p>A おそらく次回は、避難所の環境や避難所運営に的を絞った議論になるのかとは思いますが。</p> <p>F 次回よければ拠点会議で今、何をテーマに議論をしているのか一例でもいいので教えてもらいたい。</p> <p>3 閉会</p> <p>4 その他</p> <p>第三回女性の防災対策懇談会【日程調整】</p> <p>平成26年8月5日(火) 10時00分から12時00分まで</p> <p>女性センター3階 第三会議室</p>
所管課	総務部危機管理担当防災課